

公安委員会定例会議(第11回)の開催状況

第1 日 時 令和6年4月24日(水)
午後2時06分 ～ 午後4時45分

第2 出席者 五葉委員長、佐伯委員、小野委員
本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、生活安全部長
刑事部長、交通部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長
総務課長

第3 議事の概要

1 小野委員説示

本日は、製造業における「トレーサビリティ」の重要性についてお話しします。製造業では、求められる寸法通りに製品を作るため、測定器を用いて寸法を確認します。もちろん測定器は校正を行います。校正に用いた標準器は、より正確な標準器による校正が必要で、その標準器はさらに正確な上位標準器を使って校正し、その繰り返しで最上位の基準である国家計量標準にたどり着きます。この切れ目のない校正の連鎖をトレーサビリティと言います。

トレーサビリティとは、トレース（追跡）とアビリティ（能力）の造語で、日本語では追跡可能性と訳されます。製品の生産過程において、原材料はもとより、全ての加工工程、流通、販売などを記録に残すことで、予期せぬ異常や欠陥が発生した場合に迅速かつ正確にその原因を特定し、リコールや商品回収などの方法で問題を解決することが可能になります。これによって、製品の品質を維持し顧客満足度を高めるとともに、生産者側にとっても不良品の個数や拡散範囲を特定することができ、損害を最小限にとどめるというメリットがあります。

トレーサビリティが広く注目を集めるようになったのは、「BSE（狂牛病）感染問題」です。食の安全性が脅かされたことを発端に、国内でも耳標というタグを用いて牛を一頭ごとに個体管理することが義務付けられました。現在では牛だけでなく様々な商品にトレーサビリティが浸透しています。最近、消費者の信頼を揺るがす健康食品の事故が発生し問題となりましたが、食品や医薬品など、人々の健康や安全に直結する製品においては、製造過程や原材料の追跡が不可欠です。

今後、トレーサビリティを確保することで、問題が発生した場合の速やかな原因特定、適切な条件下での製品の生産、消費者の安心安全な利用につながることを期待されます。このトレーサビリティは、組織の在り方にも通じるところがあり、様々な施策や取組について記録を残し、問題発生時には行動や会議の過程を遡り、問題点を迅速に分析し解決策を導くことができます。

県警察では、様々な施策や活動に取り組んでいますが、ぜひトレーサビリティの重要性を意識し、より適切かつ効率的な業務運営に努めていただきたいと思います。

2 決裁事項

(1) 公安委員会定例会議の会議録

総務室から、令和6年第10回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

(2) 警察署協議会委員の解嘱申請

総務室から、警察署協議会委員の解嘱申請について伺いがあり了承した。

(3) 公安委員会宛て苦情の受理

総務室から、公安委員会宛て苦情の受理について伺いがあり了承した。

(4) 公安委員会宛て苦情申出書に対する回答

総務室から、公安委員会宛て苦情申出書に対する回答について伺いがあり了承した。

(5) 禁止命令等実施報告

生活安全部から、禁止命令等実施報告について伺いがあり了承した。

(6) 審査請求に係る裁決

交通部から、審査請求に係る裁決について伺いがあり了承した。

(7) 指定自動車教習所に対する表彰

交通部から、指定自動車教習所に対する表彰について伺いがあり了承した。

(8) 運転免許の行政処分に係る意見の聴取・聴聞

交通部から、運転免許の行政処分に係る意見の聴取及び聴聞結果について報告があり、審議の結果、22件の行政処分の決定について伺いがあり了承した。

3 報告事項

(1) 令和5年度第3回警察署協議会の開催状況

総務室長から、令和5年度第3回警察署協議会の開催状況について報告があった。

委員から、「協議会の委員は、地域の代表であると同時に災害危険個所の把握や地元の事情について精通している方が多いので、今後も交流を深めていただきたい」との発言があった。

委員から、「協議会に出席し、警察が地域の方から信頼され期待されていることがよく分かった。また、警察署に設置されている非常電源装置も見て、災害発生時に活動拠点となる警察署の重要性や地域の治安を守ることの難しさをあらためて実感した」との発言があった。

委員から、「協議会の答申を受け、創意工夫して実行に移している事例があることが分かった。非常に良いことであり、今後もいろいろな意見や要望を取り入れて警察活動に反映していただきたい」との発言があった。

(2) 令和5年度における愛媛県警察ひめロール制度の運用状況

警務部長から、令和5年度における愛媛県警察ひめロール制度の運用状況について報告があった。

委員から、「女性活躍は業種にかかわらず喫緊の課題であることから、

ひめロール制度は良い取組だと思う。今後も女性職員が不安を解消し、やりがいを持てるような職場環境を整備していただきたい」との発言があった。

委員から、「女性警察職員の会議に出席し、意識や能力が高く、県警察にとって人材の宝庫であると感じた。彼女たちが力を発揮することで県警察全体の力が増すと思う。出産や育児など、経験しなければ分からない事情があるので、身近な先輩からの具体的なアドバイスは何よりも役に立つはずである。今後も継続して取り組んでいただきたい」との発言があった。

委員から、「誰かに悩みを相談し、返ってくる言葉があることは非常に大事なことである。女性職員にとって素晴らしい取組だと思うので今後も継続していただきたい」との発言があった。

(3) 令和6年度監察実施計画

首席監察官から、令和6年度監察実施計画について報告があった。

委員から、「警察の仕事は一般企業よりも厳しい目でみられているが、これは期待の表れである。大変だと思うが、内部の規律の維持に努め、県民のために頑張っていただきたい」との発言があった。

委員から、「厳しいようだが、監察業務は性悪説に立たないと効果がない。ブラインド方式も取り入れるなど、より実効性のある監察に努めていただきたい」との発言があった。

委員から、「先日県内で震度6弱の大きな地震が発生したが、大規模災害に迅速・的確に対応できるように業務の点検をお願いしたい」との発言があった。

(4) 第42回勲章伝達式の開催

首席監察官から、第42回勲章伝達式の開催について報告があった。

委員から、「大変喜ばしいことであり、職員の士気高揚につながる。配偶者の方にとっても晴れ舞台で良い思い出になると思う」との発言があった。

委員から、「私も出席する予定であり、晴れの舞台で皆様にお目にかかれることを楽しみにしている」との発言があった。

(5) 自転車対策の推進

交通部長から、自転車対策の推進について報告があった。

委員から、「最近、スマートフォンを見ながら片手運転で自転車に乗っている人を見かける。また、自転車の補助機能が向上しており、運動能力が低下した高齢者でもスピードを出して走っている人がある。今後こうしたケースが増えていくと思うので、取締りの強化など、しっかりと対策を講じていただきたい」との発言があった。

委員から、「高校の教員時代には、高校生の安全教育、特に自転車の安全利用やマナー向上が大きな悩みであった。自転車は被害者になるイメージが強いが、加害者にもなり得る側面があることをよく認識し、広報啓発によって命の大切さを訴えていただきたい」との発言があった。

委員から、「自転車の利用者は、自動車と異なり子供が多いことから、自転車事故の減少を図るためには、単に規制を強化するだけではなく、忍耐強く長期的な取組が必要だと思う。成人や高齢者のヘルメット着用

を推進し着用率を上げていくことも重要である」との発言があった。

(6) 愛媛県内震度 6 弱の地震の発生と初動措置

警備部長から、愛媛県内震度 6 弱の地震の発生と初動措置について報告があった。

委員から、「今回の経験とデータを今後の災害対策に生かし、被害の軽減につなげていただきたい」との発言があった。

委員から、「先日の地震では、南海トラフ地震を始めとする災害に対する備えの重要性をあらためて実感した。深夜にもかかわらず、多くの職員の方が、大切な家族を残して非常参集したことに敬意と感謝の気持ちを表したい。これからも災害対策を推進していただきたい」との発言があった。

委員から、「被災状況を早期に把握するためには、ヘリコプターの活動は非常に重要であると感じた。ヘリコプターや航空隊員の効果的な運用に配意するとともに、非常参集した職員が的確に対応できるように練度を高めていただきたい」との発言があった。

(7) 監察案件に関する報告

警務部から、監察案件に関して報告があった。

(8) 訟務案件に関する報告

警務部から、訟務案件に関して報告があった。

(9) 六価クロム検出による水質検査の結果

警務部から、六価クロム検出による水質検査の結果について報告があった。

(10) 令和 6 年度愛媛県警察術科部員及び白バイ特別訓練員の指名式の実施

警務部から、令和 6 年度愛媛県警察術科部員及び白バイ特別訓練員の指名式の実施について報告があった。

(11) 社交飲食店に係る不利益処分に伴う聴聞の実施

生活安全部から、社交飲食店に係る不利益処分に伴う聴聞の実施について報告があった。

4 その他

本部長から、「委員からトレーサビリティの重要性についてお話をいただいた。委員御指摘のとおり、様々な活動記録を残し、後の検証や業務改善につなげる取組は非常に重要なことである。我々県警察の職員も、トレーサビリティの重要性を認識し、県民の利益、組織の将来、後進の育成等のため、残すべきものは残すという意識で文書作成や記録化を図ってまいりたい」との発言があった。

以 上